

MOHAWK
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK COLOR CONTROL PATCHES

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



命本



特別
子12
3643
13(20)





鐘本

行^{ヨハク}法^シ了^アる^イあ^ハの^ニ道^ニあ^ハま^ハる^クは^シて^ハも^ト方^カを^ア
 心^シく^ニあ^ハる^ハ見^ミる^ハ二^ニ不^フ位^ケの^ウ
 外^シ門^ノを^シて^ハ抄^シ此^ノ符^ハに^テ農^ノ園^ヲあ^ハる^ハ
 か^ハ鐘^ノの^シま^ニ電^ノを^シく^ハゆ^ハ符^ノを^シて^ハ此^ノ交^ハ
 鎌^ノ倉^ノ子^ノが^ハり^ハま^ニあ^ハり^ハ修^ノり^ノみ^ノ出^ルを^シ
 や^シし^ハ思^ハふ^ハ信^ノ法^ヲあ^ハる^ハ清^ノ阿^ノの^ノ歡^ヲ



し角もさくわつりつ 氷面へ出窓
氷由とてしやとて思ふ 何れ
きく雪のやぶらに女あり人の面自う
作らざれとてき 鶺鴒毛は似て
散乱し人の鶴毛とてさくちて
佃もとていふれはうあるきり
んー雪のよひにわが我の鶺鴒毛と

きくちきく 佃もとてさくちて
油もいれ 細命衣陸奥のきり
とつとてさくちて 雪の日は
あつとて思ふよとていふれはう
見しよきくちきくちていれ
修り去るは一夜の宿の作
初より留守の由申して久はゆり

中井

一可ヒトコトもきくもききし袖ヒトコトさる雪ユキ打ヒ打
 ちりく志シはるゝ勢セウ古コ奇キの心ココロ
 似ニきさうや駒ウマさうと袖ヒトコト打ヒ打ヒひ
 きり佐サ野ノの海ウミれきレキの文モンそまが
 様サマ様サマハ大オホ和ワ路ロ也ヤ二ニ輪リンぐさサ泥ドロさる佐サ
 野ノの渡ワタリりリ是コノハ東トウ路ロハ佐サりリ後ノチと

ぬ雪ユキ入イるルそまソマよヨ味アジ百ヒャク行ユクるル給タマハシさしサシしシ
 預ヨク告ツク教カウ久キウとト一イツ束ツクきキ泊トクりリ屋ヤ々ツツやヤウウ空カラ
 是コノもモ核クワのノ宿シュク妙ミョウくク懐カハ知チあアるル徳トク遇ウ
 ぬ縁ヰ一イツ樹ジュのノ陰カゲハハやヤりリしシ甚シあアるル
 契ケツりリちチりリそソれレハ雨アメ名ナ木キ陰カゲ是コノハハ色シキ
 の新ニすスてテはハ花ハナさサるルしシ花ハナ子コ枕マク多タ
 ちチとトもモびビとトかカしシくクいイらラふフ

あつて宿の申してはるるのいふにや
勢うもさるるのいふにや
常一見しは震れぬの宿の昔一
まのしちりきりけりけりけり
知くべつた下の宿のいふにや
あつてさるるのいふにや
常一見しは震れぬの宿の昔一

あつて宿の申してはるるのいふにや
勢うもさるるのいふにや
常一見しは震れぬの宿の昔一
まのしちりきりけりけりけり
知くべつた下の宿のいふにや
あつてさるるのいふにや
常一見しは震れぬの宿の昔一

常

宿

花の夏は五十年。其那那那乃乃と枕
一まの夢のなみりし案帳か
ほごぞうあまのちまきに抄せうと
し福くまふし音とわらまの六慰む
事もさるこいよなほ話んきよか程
まぐせまうられたる故郷の村
さみもおもひのち福くまふこいよなほ
七

いんげん豆の汁
はひく次第にちかづく成作けし
火子焼てあてしあまさんへまむもある
あたらしくぬる鉢の末と持てくは
と切火子たらしめてあてド
鉢すぬよさむん果女に有り何
餅まよも宛敷多末と集めし

竹

雪の初 かく去るあめ 秋のまき
捨人の為の薪 木きくくめりや
神のうらら松ひくくれは面
白やうたきんぎもみまよし吸てし
窓の梅の水面を雪封してまき
まきとまよしきしはくくくくく梅と

きりやきりやきりやきりや
うきれ山里のたりも垣の梅も
替あしあしあしあしあしあし
和しと急ぐ男もまき 梅をまき
まきとよき花もきりきりきり
使しと心もきりきりきりきり
秋のまきひくくまきまき切く

三ノ早社佐野原左邊の幸世ネボのあは
果ハテうキくキろキれキ行キくキかキ様キのキ敵キの
神テ子テのテ成テのテ成テてテのテ族テ
とテのテ押テ留テめテてテがテ様テのテ成テてテ
あテのテまテのテ行テくテてテ銀テ念テのテ成テてテ
其テ津テけテのテ成テてテ軍テのテ成テてテ
寂テ明テのテ成テてテのテ成テてテのテ成テてテ

様モ子ノあリくレたレてテ父ノたレるレはレ目ノ見レるレ
武モ具ノ一ノ領ノ長ノ刀ノ一ノさレるレ又ノあレるレ馬ノとモ
一ツつルおシ持チくル目ノ見レるレはレ目ノ見レるレ
万ノ事ノ銀ノ念ノ津ノ大ノ子ノのレ成レてテ
きリのレ成レてテ具ノ見レるレはレ目ノ見レるレ
アトとモ長ノ刀ノをモ持チ瘦マせルたレあレ
馬ノ子ノ一ノ番ノ子ノをモ持チ瘦マせルたレあレ

カエ
俗合戦もさす六上は敵大城有る
もく番子破て入思ふ敵とす
あひ打つひび死あし洗され洗す
あうらうらうら合子つきて死あ人命
あしほへん入えれたありぞ
身のつきていそそ一兵ねれ新事す
あえんほへんそいまり人のあへて

出さ也公おわれさやぞめつ
心我宿のざいりめつろへつとま
志のしまりたへやあまは徒入使あ
らへぬくさひつさう日れいあへ
まむいそあまいけくま宿さかり夜
まももるしあり給へや各隊は宿ま
あまれのあへて津出うあへ

早被 早被
入 早被
乃 乃
ワキセウキニカル時
チ上ヌクカヨリ早被
ニ服ニテ也

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

まし見者敷武去よりあれども中おん
き事シテ ねき果ぐるやういつて長
きことちうへ心得申るおん こと
是れもあゆまう某が敵入謀叛人テキヒムホシと
申上コト前より出さういふことな
ましたあちよりしる物もらうあ
づしくは前よりあつたこと大度してエサレニホカ

入候をいふ今度のこともうらみウラミなり
あつた兵きうほれしうあつた
は依前より法侍を御格入するとの
つね目をいふ指をけりしうあつた
まじりしうあつた母のやうな古く
あつた長切屋よりうらみ横をうら
ひまじりしうあつたあつたあつた

三ノ下 甲子記

屋つらふあむさるは佐野の

源左衛門^{の尉}幸世^の是社つたきやの大

堂に宿るし修り者よえわとれ

と有らしては佐野まきくトまこうれ

今まのしりまに銀念ふは大事あり

まらばいざしむらうとまも具足^{トツ}成て

投^{ナケ}懸^{カケ}ぶらうらた具も力を持^{モチ}瘦^{ヤセ}くると

とらぬこま業一番子^{ハセ}残^{ニイ}あるつとる

申はるさ成りたはと^コ家とまらう入して

いまりするは神^シ也^シあらざると^コ家^トあら

物^セづらひ^イ全^シ入^リまの^ツ事^ツあり^ツと^ツ幸^ツ世^ツの^ツ云

比^ヒの^ヒま^ヒ入^リ真^ニう^{コト}偽^イう^ツま^ツら^ツし^ツ為^ス也^シ又^ツ面^ツ

糸^サの^サく^サを^サ新^ニ報^ツあり^ツハ^ツト^ツな^ツり^ツ理^ツ部^ツの

うら^ツく^ツ其^ツ所^ツは^ツつ^ツら^ツし^ツ報^ツの^ツ初^ツ也^シと^ツ云^ツ

けはのちあひの孝せうに依りて
三十金をみりてあつる處のついでり
も切ありき大を降て家なるより
秘蔵きし鉢木をこら火に焼きて
一巻をみりてのまよひのちりて
ついでに時の鉢木に梅樹松あり
うれ其をみりて加賀子梅田部中

梅井上野子松枝合せて二ヶの法
みりておむる迄相違ありけり自
筆の作安法子おそくひきけり
幸世き見しを給りて三度改載
はりて是れをいふやんよきあり
しりておむるの由ありて
うれおむるに梅田部法軍勢

皆御暇給り舊郷へくそぬりき
其子に孝世ノヤク^中よりぬるを
ひくさつて入るるは女^{カケ}洗馬^{カケ}打
奪てくるも^云也^云作野乃舟橋^{カケ}や
まあま^{カケ}り^{カケ}茶^{カケ}子^{カケ}安^{カケ}堵^{カケ}してぬるそ
う^{カケ}り^{カケ}き^{カケ}る^{カケ}く^{カケ}



